「木場の窓から見えるもの（元外交官の視点）」

当社顧問石井正文氏（前駐インドネシア日本国大使）による
気になる海外情報を原則第2、第4木曜日に配信しています。

第55 回：習近平の求心力の現状

2023年8月24日配信

【ポイント】

■7月末の秦剛外交部長更迭に続き、8月1日には、人民解放軍中枢部隊であるロケット軍のトップ2が共に他軍出身者に交代するという不規則人事が発表された。

■現在習近平は、就任後3度目の反汚職キャンペーンの最中の模様。

■この2つの動きを結びつける一つの仮説は、党組織引き締めのためにも、国民支持を得続けるためにも、反腐敗を含む党規律の強化は不可欠であり、この流れを逆手にとって党内不満派が習近平の「お気に入り」をつぶしている、というもの。

■人事で独り勝ち状況にある習近平の求心力への影響は避けがたく、長老不在で無風と見られていた本年の北戴河会議にも若干要注目か。

【本文】

■何が起こったのか？

・8月1日に、中国人民解放軍ロケット軍（核兵器とミサイル部隊からなる、人民解放軍の中枢部隊）トップ2交代の人事が発表された。

＊昨年1月に就任したばかりの司令官・李玉超に代え、元海軍副司令官の王厚斌をロケット軍司令官に任命。

＊党代表であり司令官と実質同列の政治委員には空軍出身の徐西盛が就任。李の副司令官の劉(Liu)もここ数か月雲隠れ中。

＊理由や背景についての情報は皆無だが、おそらく、汚職・機密漏洩などの規律違反と目されている。

＊李玉超の司令官就任は、習近平人事と目されている。その1年ちょっとでの解任は、人民解放軍の中枢部隊で有るだけに、習近平にとってはそれなりのダメージ。

＊もう一つのポイントは、トップ2の後任に、従来の伝統と異なり、ロケット軍出身者以外を持ってきたこと。これは、習近平がロケット軍に対する信頼を失ったと言うことを示すのだろうが、経験の無い司令官が今後台湾侵攻を含む事態に際して重要な判断を的確に下し得るのかにも疑問有り。

・6月末から公式の場所から姿を消していた秦剛外交部長については、上記のロケット軍人事の約1週間前の7月26日に外相更迭が発表された。但し、国務委員の肩書は維持している。

＊秦剛は、習近平のお気に入りで習近平自身が駐米大使から外交部長に引き上げたと言われる。

＊外交部長就任直後に国務委員にも就任（前任者王毅はそうでは無かった）したのは、その証左。

＊これから年末にかけ米中両首脳間には、11月の米APECの際の習近平訪米だけでなく、9月のASEAN関連首脳会合、G20首脳会合（昨年のインドネシアG20首脳会合では、米中首脳会談が行われた）等、多くの接触機会がある。

＊これらは、厳しい緊張関係にある米中が、話し合いを通じ対立を管理するという基本方針と米側閣僚が次々と訪中するという最近の流れに基づけば重要な機会だし、特に訪米は習近平にとり決して失敗できない重要行事だが、なぜ、このタイミングで、準備の中心になるべき秦剛を解任したのか不可解。

＊ソーシャルメディアでは、女性テレビ司会者との不倫云々の規律違反が取りざたされている。

■なぜ今なのか？

・なぜ習近平がここまで汚職撲滅に注力するかの理由は、汚職は共産党統治の正統性に関わり、共産党政権に対する一般大衆の支持を損なうからだろう。

・現在、習近平就任以来第三回目となる大規模汚職撲滅キャンペーンが進行中の模様。

＊6月に共産党反汚職委員会が、昨年10月以降軍幹部を含む39人以上を調査中と発表。

＊7月に人民解放軍は調達システム調査を開始し、幹部の社交の厳格な新ガイドラインを発表。国営メディア報道によれば、それらのルールは秘密情報漏洩他の規律違反への対処が目的。

＊軍指導部の汚職頻発を、習が軍の力の濫用を止める個人的関係とコントロール力に欠けている証左と見る向きもある。

＊前回大規模キャンペーンは5年前。それ以降、トランプ大統領との初会談に同行した前人民解放軍統合幕僚長の房峰輝は追放され、2019年に汚職嫌疑で終身刑で収監。別の張楊将軍は、公式処罰前に自殺。

■この2つの不規則人事が意味することは何か？

・一つの仮説は、党組織を引き締めるためにも、また国民の支持を得続けるためにも、反腐敗を含む党規律の強化は不可欠であり、この流れを逆手にとって党内不満派が習近平の「お気に入り」をつぶしている、というもの。

＊党規律違反の「密告」は大いに奨励されており、「お気に入り」といえども、重大違反と言われれば逃げることは難しい。

＊人民解放軍内の不満派の策動であり、軍人同同士の足の引っ張り合いであった可能性は高い。

＊同じことは秦剛外相にも当てはまる。規律違反を理由に刺されたということ。実績もないのに押し上げ過ぎた。

・習近平の求心力への影響は避けがたいか

＊昨年のゼロ・コロナ政策の突然の停止は、習近平の権威を傷つけた。

＊対外関係にも 逆風が吹いている。

＊そして外交と軍事と言う2つの重要分野で、人事に味噌がついた。

＊習近平がある意味「強引に」進めた人事が蹉跌した意味は少なからず、習近平への求心力の更なる低下でもあり得る。今後の中国内部の動きに一層注意が必要。

＊既に始まっていると言われる本年の北戴河会議は、長老不在で無風と見られていたが、若干要注目か。

以上

りそな総合研究所　顧問　石井正文